

提 言 書

— 平成31年議会報告を終えて —

栗山町議会

はじめに

栗山町議会の議会報告会（以下「報告会」という。）は、平成17年3月に宮城県本吉町（当時）に続き全国2例目として開催して以来、今年で15年目を迎えた。

今年の報告会は、平成31年2月3日から11日までの日程で、町内12会場において開催した。今年のテーマは、中長期財政問題等調査特別委員会に付託された栗山町第6次総合計画基本構想及び基本計画の見直しに加え、まちが直面する主な課題、議会の活動状況、議員のなり手問題について、それぞれ町民に説明し意見交換を行った。報告会には、延べ259名の町民の参加があり、それぞれのテーマに対して、数多くの意見や要望が出された。

これらの意見や要望については、付託議件審査に関して中長期財政問題等調査特別委員会で質疑するものと議会から行政に対して提言するものにそれぞれ分類した。

この提言書は、前述した議会内での討議を経てまとめたものであり、町民からの貴重な政策提案として、今後の行政運営の一助とされることを期待する。

平成31年3月29日

栗山町議会 議長 鵜川和彦

1. 諸課題に対する提言・要望

□栗山赤十字病院の改築について

(議会の見解・提言)

栗山赤十字病院の改築については、医師確保、診療、救急体制や病院経営など栗山赤十字病院の現状に対する改善要望が多く、潜在的な不満が垣間見られた。また、まちづくりの面において、総合病院は必要な機能であり、栗山町のまちの規模に合った地域医療の確保を求める意見もあった。

反対に、日赤病院の将来展望に懐疑的な立場から町単独ではなく、広域連携の可能性を探ってほしいという意見があり、少なからずこうした考えを持つ町民が相当数いるものと推測される。

いずれにしても、栗山赤十字病院の改築については、本町の将来にとって大きな問題であり、地域医療の確保を検討するにあたっては、十分な情報公開と幅広い層の町民からの意見聴取を行い、慎重に進められることを求める。

なお、当分の間は、現行の医療体制が継続されることから、栗山赤十字病院をはじめ、町内の医療機関と密接に連携し、町民が安心して暮らせる医療体制の維持確保に努力されたい。

(報告会おける町民からの発言)

- ・日赤栗山病院について町民に意見を聴くのであれば、情報がもっと欲しい。
- ・入院ができる病院が日赤病院しかなくなってしまった。入院可能な総合病院は必要だ。
- ・財政が厳しいのはわかるので、栗山町単独ではなく、他町と連携して広域で考えてほしい。
- ・冬は玄関前に氷があり危険だ。日赤職員にも安全対策を考えてほしい。
- ・医療問題は重要である。栗山町にあった体制（救急医療、病院規模など）づくりを。
- ・日赤病院があるから安心できる。無くなるとまちづくりの面からも大きな問題だ。
- ・日赤病院に毎年助成しているが、もう少し医師を確保して毎日診察してほしい。
- ・毎年日赤募金をしているが、すべて本社に行ってしまう栗山町には還元されないのでは。
- ・救急医療体制で二次医療圏への搬送体制の確立をしっかりとしてほしい。
- ・日赤病院の救急医療体制には受入れに問題があると聞くので改善してほしい。
- ・もっと利用したいので通院の手段を確保しては。送迎も考えてみてはどうか。
- ・日赤病院の運営について自助努力が欠如している。
- ・日赤病院の経営姿勢に疑問がある。患者が集まる努力をしてほしい。

□栗山スキー場の存続について

(議会の見解・提言)

栗山スキー場の存続については、存続と廃止で意見が二つに分かれた。北海道の積雪地帯に住む者にとって、スキーは身近なスポーツであり、冬季における運動不足を解消し、健康維持や体力向上の面から有用と言え、長い歴史のある施設でもあり、存続を願う声が多く出された。

一方、主たる利用者である児童・生徒数が減少していくことや町財政の観点から廃止や近隣のスキー場を利用することを進める意見も出されたことは見逃せない。

今後、存続について、行政としての結論を出すにあたっては、拙速にならないよう利害関係者ときめ細やかに協議を重ね、十分な検討がされることを求める。

(報告会おける町民からの発言)

- ・まちから近く便利なので、何らかの形で残してほしい。
- ・これだけ町の財政が苦しいのなら、なくてもよいのではないか。
- ・スキー場の維持だけでなく、冬のスポーツに対して予算、環境を整えてほしい。
- ・もしスキー場がなくなっても、スキーの技術を育てる活動をつづけてほしい。
- ・小さな子どもでも遊べるファミリー級のスキー場なので良い。
- ・スキーができる環境をなくさないでほしい。子どもたちに投資してほしい。
- ・スキー場を含め今の議員がいい顔をして大きな借金をしたら将来に大きな負担となる。
- ・こんなに雪に恵まれた土地なので子どもの学びのためにスキー場は必要だ。
- ・児童・生徒数もこれから減少するので建替え負担は大変なので、近隣のスキー場を使用してほしい。
- ・スキー場にこれから大きな投資をするのは反対だ。
- ・スキー場は「あったらよい施設」であり、近隣を使用した方がよい。
- ・スキー場の存続に関しては発想の展開が必要。

□北海道介護福祉学校の存続について

(議会の見解・提言)

北海道介護福祉学校の存続については、今回の議会報告会の参加者層を考慮すると関心の低い問題と言える。少ないながらも出された意見は、存続について不安視するもの、魅力向上を奨励するものであった。

学校の性質上、町民共通の政策課題として設定が難しい課題ではあるが、本町において本校が果たしてきた役割はあまりに大きい。今後は、存廃を含めた慎重かつ抜本的な検討が行われることを求める。

(報告会おける町民からの発言)

- ・魅力がないのでは。介護福祉学校も財政的に存続は厳しいのでは。
- ・介護福祉学校でヘルパー講習などをやってみたらよいのでは。
- ・介護福祉学校は町立なので費用対効果を考えたら存続は難しいのでは。
- ・栗山高校と何らかの連携をして魅力アップしては。

□栗山高等学校の存続について

栗山高等学校の存続については、今回の議会報告会の参加者層を考慮すると関心の低い問題と言え、また、道立校という学校の性質上、町民共通の政策課題としては設定が難しい課題である。

高校存続に関しては、最大の当事者である小・中学生とその保護者や小中学校関係者、さらには卒業後の進路となる企業、大学・専門学校関係者などから十分に意見を聴くなど、町の支援策に対する評価や南空知南部地域における中等教育のあり方について、十分に研究されることを求める。

(報告会おける町民からの発言)

- ・魅力がないのでは。
- ・栗高生の資格取得試験の半額助成は良いが、入学しないと分からないので、もっとPRしては。
- ・当事者である中高生の気持ちを聞いて対策すべきだ。

□防災・災害対策について

(議会の見解・提言)

昨年の胆振東部地震やそれに伴うブラックアウトにより、防災や災害時対応について、町民の意識、関心が高まっている。

情報社会と言われる現代において、その取得手段は多様であるが、去年は停電によりその手段が大きく制限されてしまった。特に高齢者など情報弱者となる可能性がある町民にとって、行政からの情報提供は生命、財産を左右するほど重要な意味を持つ。

町が第6次総合計画において進める各種防災または災害時の対策について、予算面で実現可能なものは計画の見直し、前倒しも視野に入れて対応されたい。

(報告会おける町民からの発言)

- ・防災無線がないのは栗山だけ。FM局の開局が平成34年では遅いのではないか。
- ・FM局開局は遅いが、ポケットベル機能の方が文字が見えるので良いのではないか。
- ・非常用電源の工事は計画的に行われているが、バイオマス発電の誘致を行って見ては。
- ・防災対策の強化をスピード感をもって対応してほしい(発電機の設置、情報の発信)
- ・情報を伝える広報車が聞きづらいので、個所箇所で停車して放送すべきでないか。
- ・各町内会に掲示板を設置して、情報の内容を開示してはいかがか。

2. その他の課題等に対する提言・要望

その他として、下記のような意見、要望が出された。いずれも切実な課題あり、町民が地域で安心、快適な暮らしが享受できるよう、地域住民や関係者などの意見を十分に聴き、適切に対応をされることを望む。特に角田地区の商店の誘致については、小売業が社会インフラとして位置付けられる現在において、中部地域の生活基盤上欠かすことのできないものであることから、他自治体の先行例などを参考に、地域住民との協働関係により解決を図ることを求める。

- ・角田地区は曙団地の建替え、工業団地の造成、跨線橋の撤去が行われたが、日配品が買える店がないので誘致してほしい。
- ・コミュニティバスを角田地区まで運行してほしい。
- ・時登山にお墓を持っているが、先のことを考えると合同墓の設置を考えてほしい。
- ・鹿肉加工施設は稼働しているのか分からない。委託しているが経費助成もしており、費用がかかっているので、いったん休止を考えては。
- ・除排雪について、しっかりパトロールし、消防車や救急車に支障のないよう対応願いたい。技術的にも一考を要する。なお、住民の意識向上も必要。
- ・人口増を目指して転入者への大幅な家賃助成などを考えては。
- ・角田鉱の採炭がもうじき終了すると思うが、町道の管理の徹底を望む。

栗山町議会